

## GBIF新ポータル発表

GBIFでは、[第20回理事会](#)の場を利用して、新規グローバルポータルサイトの発表を行いました。GBIFでは、地球上の生物種分布に関する世界最大規模のデータベースを管理・運営していますが、新規サイトにより、このデータベースに対するアクセスが更に容易になります。

この発表の様子は、<https://new.livestream.com/gbif/>からビデオでご覧いただくことができます。

発表内容の詳細は、2ページ目にあります。

## 生物多様性情報の普及に新たな枠組み



### Global Biodiversity Informatics Outlook

地球規模生物多様性情報概況 (GBIO) は、情報技術が有する絶大な力とオープンデータとを活用する枠組みであり、生物多様性に関するデータをかつてない規模や精度で収集するとともに、政策決定に役立てることを目標としています。

この取り組みの概要については、「情報化時代における生物多様性情報の提供」(Delivering Biodiversity Knowledge in the Information Age) と題する[文書](#)や[ウェブサイト](#)に示されており、政策担当者、資金援助団体、研究者、インフォマティクス専門家、データ所有機関等に対して、進展が必要な四分野の協力を呼びかけています。

[詳細は、GBIOウェブサイトをご覧ください。](#)

### パートナーシップ 2

地球規模侵入生物種情報  
パートナーシップとの連携強化

### 新規加盟団体 2

中国科学院GBIFに参加  
データ公開ネットワークVertNetが  
GBIFに加盟

### トレーニングセミナー 3

生態ニッチモデリングのトレーニング  
ビデオ公開  
データ・デジタル化トレーニング  
セミナー開催 マダガスカル

### 新規データ 3

ブラジル  
台湾  
カナダ  
コロンビア  
デンマーク  
ドイツ  
日本  
ノルウェー  
イギリス  
アメリカ

### ニュースから 4

### GBIFネットワーク内外の活動 5

生物多様性プロファイルに関する報告書発表  
オーストラリア

### 今後のイベント予定 5

会議とワークショップ  
トレーニングセミナー

## GBIF新ポータル発表（前ページから続き）

この新たなGBIFウェブポータルサイトでは、データ検索機能と情報提供が一つにまとめられ、研究利用事例、ツール、研究の方法論や各国の活動に関する検索やアクセスが容易になったことにより、GBIFの価値が一層明らかにされています。

このポータルサイト立ち上げに関する講演は、報道機関を始め一般に公開され、<https://new.livestream.com/gbif/> からビデオで視聴することができます。

新規ポータル開設に関する説明とともに、GBIF加盟国である[コロンビア](#)や[日本](#)が、GBIFが開発したオープンソース・ツールなどのリソースを活用し、[それぞれ国内において生物多様性情報を公開している状況に関する講演もアップ](#)されています。

当日引き続いて、GBIF年次科学シンポジウムが開催され、GBIFネットワークを介して入手したデータを利用したモデルケースが紹介されました。その中には、南米における植物保全の優先分野を特定する方法や、気候変動に伴い熱帯林が変化する状況を調査した研究などがあります。この講演もビデオで配信されています。

科学シンポジウムについては、[こちら](#)をご覧ください。

## 地球規模侵入生物種情報パートナーシップとの連携強化

GBIF事務局では、侵入生物種の脅威に対処するために、政策担当者が利用できる情報の向上を目的とした国際組織との連携を強化します。

生物多様性条約事務局 (SCBD) との合意に基づいて、GBIF事務局は、[地球規模侵入生物種情報パートナーシップ](#) (GIASIP) の主要な窓口になります。侵入生物は生物多様性が損なわれる大きな原因となっており、GIASIPでは、関係機関の協力により、侵入生物に関する情報提供システム間の相互運用性を改善することとしています。

今回の合意により、GBIFは、GIASIP情報インフラの整備を主導するとともに、GBIFデータネットワークとの連携・統合を図ります。

## 新規加盟団体

### 中国科学院GBIFに参加

[中国科学院](#) (CAS) は、中国における自然科学分野最高レベルの国立研究機関ですが、今回新たにGBIFの仲間入りを果たしました。

中国科学院は、GBIF覚書に署名し、最も新しい準参加団体となりました。今回の措置により、中国科学院には、GBIF理事会への参加が認められ、GBIFによりデータ公開を行う機関の承認を行うことが可能となります。

9月14日には、上海にてGBIF-CASノードの発足を記念する式典が開催され、中国及び東アジア地域のデータを公開するポータルサイトの開設に向けた取り組みが開始されました。

中国科学院植物研究所の植物生態学教授である馬克平博士は、GBIF代表団臨時主席であり、次のように語っています。「GBIFの一員として、中国科学院は、生物多様性インフォマティクスの発展に貢献します。我々の関心は、中国のデータを公開すると共に、GBIFデータの活用により、国内のさまざまな機関が保有する生物多様性データセットの開発・統合を目指すことです。GBIFネットワークとして、アジア地域において生物多様性データが不足している領域にも対処したいと考えています。」

中国科学院は、1949年に設立された研究機関であり、中国各地に13支部があり、傘下には百を超える研究所と2大学を有しています。当院の本部は、中国の首都北京にあります。

中国科学院は、アジア生物多様性保全データベースネットワーク (ABCDNet) の設立をはじめとして、地球規模およびアジア地域における生物多様性インフォマティクスに関する活動に積極的に関わっています。当院は、カタログ・オブ・ライフ、エンサイクロペディア・オブ・ライフ、生物多様性遺産図書館 (Biodiversity Heritage Library, BHL)、その他の生物多様性に関する国際組織に関し、中国側の窓口であるとともに、国立機関のコレクションの他、調査や一般から提供された野外観察記録や画像のデジタル化を推進しています。

GBIF事務局長ドナルド・ホバーンは、「中国科学院は、GBIFパートナーとして適任であり、当院と協力を推進することによって、東アジア発のデータがGBIFに組み入れられると共に、中国と更に密接な協力関係を結ぶことができることを願っています」と語っています。

## データ公開ネットワークVertNetがGBIFに加盟

[VertNet](#)は、脊椎動物に関する自然史コレクションや観察記録のオープンアクセスを推進する団体ですが、このほどGBIFの準参加団体となりました。

今回の加盟により、GBIF理事会に出席が認められ、GBIFネットワークによりデータ公開を行う機関を承認することができるようになります。

VertNetは、アメリカ国立科学財団の資金提供により設立された団体であり、ほ乳類の観察データやコレクションのオンライン化を推進しており、現在、38ヶ国において収集データの活用を支援しています。



VertNet運営委員会の委員長であるロバート・グラルニック氏は次のように語っています。「VertNetが準参加団体となれたことをうれしく思います。我々は、アメリカだけでなく、広い地域におけるデータのオンライン化を支援してきました。VertNetが正式に準参加団体と認められたことは、まだGBIFに加盟していない国にあるデータ保有機関にとっても朗報です。」

## トレーニングセミナー

### 生態ニッチモデリングのトレーニングビデオ公開

GBIFスペインが2013年5月に主催した生体ニッチモデリングに関するワークショップのビデオが<http://www.gbif.es/videos/videos.php>から公開されました。討議も含め全セッションがこのリンクから視聴可能であると共に、セミナー資料は、<http://www.gbif.es/formaciondetalles.php?IDForm=110#descargas>から入手できます。

### データ・デジタル化トレーニングセミナー開催 マダガスカル

マダガスカル生物多様性情報機構 (MadBIF) とマダガスカル生物多様性ネットワーク (REBIOMA) は、8月22~23日に、生物多様性インフォマティクスに関する訓練セミナーを共催しました。マハジャンガ大学から32名が参加し、生物多様性データをデジタル化し、公開する方法について、訓練が行われました。

## 新規データ

### ブラジル

ブラジルが昨年GBIFに加盟した後最初に公開されるデータセットは、ブラジル皇帝が19世紀に設立した植物コレクションに関するものです。

[リオデジャネイロ植物園](#) (JBRJ) の植物標本館に所蔵されている50万件のデータは、GBIFポータルサイトから検索やダウンロードが可能となりました。

このデータセットは、ブラジルや南米の植物を対象としたものであり、19~20世紀の著名な博物学者が収集した標本が含まれています。

このコレクションは、当初、皇帝ドン・ペドロ二世が19世紀後半に寄贈した25,000件の標本を核としてスタートし、その中には、フランスの植物学者アントワーヌ＝ローラン・アポリネール・フェが採取した植物標本も含まれています。その他、アドルフ・ダック (Adolpho Ducke)、ヨハン・ルーフグレン (Johan Löfgren)、ジョアン・ゲラルド・クルマン (João Geraldo Kuhlmann)、パウロ・カンポス・ポルト (Paulo Campos Porto) やアレキサンダー・カート・ブレイド (Alexander Curt Brade) といった著名な植物学者の手による標本も、このコレクションに保管されています。

数十万件もの証拠標本に含まれる乾燥植物標本の他、種、採取場所及び年月日、採集者名などの情報を記した標本ラベルをデジタル化したデータが、GBIFデータベースに保管されています。情報は全て[GBIFポータルサイトから検索可能](#)となっています。

### 台湾

台湾生物多様性情報機構 (TaiBIF) では、市民が収集した[11,000件を超えるガに関する観察データ](#)を公開しました。このデータは、フェイスブックを活用したオンライン・コミュニティによるもので、メンバーはガの画像を観察日付および場所のデータとともにアップします。画像についてメンバーが討議を行い、その種を特定します。その後、データの取り込みを行い、保存が行われます。

この「Moth Alerts」のような活動では、主催者がガの画像を掲示し、グループのメンバーも日付や観察場所データとともに画像をアップします。この様な方法により、情報の共有化を推進することができます。



このフェイスブック・コミュニティは、<https://www.facebook.com/groups/enjoymoths/> にあります。

また、TaiBIFでは、台湾にある特有生物研究保育中心 ([Endemic Species Research Institute](#)) 所蔵のコレクションや調査結果から、[9000件を超えるガのデータ](#)を公開しました。標本画像は、[Flickrから](#) CC-BYライセンスにより、一般公開されています。

### カナダ

ブリティッシュ・コロンビア大学にある[カナダ最古の植物園](#) (1916年開設) では、展示されている[9500件の植物データ](#)を公開しました。この植物園のコレクションに含まれる植物種のほぼ90%は、GBIFポータルサイトからアクセスできるデータセットに含まれています。

当大学付属植物園には、世界中の地域から採取した8000種、12000件の植物が蒐集されています。

[スペンサー昆虫コレクション](#)は、西部カナダで二番目に大きな昆虫標本館ですが、国内に棲息する475種類の昆虫に関して、[4500件のデータ](#)を公開しました。このコレクションの特徴は、半翅類、トンボ類（イトトンボ類を含む。）の他ノミやシラミ類が充実している点です。このコレクションが所蔵する標本の画像は、一部[http://www.biodiversity.ubc.ca/entomology\\_pictures/](http://www.biodiversity.ubc.ca/entomology_pictures/)から閲覧できます。

## コロンビア

コロンビアの機関からは、GBIFネットワークに対してデータ提供が継続的に行われており、現在では総計で百万件に届きそうな勢いとなっています。最新のデータセットは、水生鳥類研究・保全協会 (Asociación para el estudio y conservación de las aves acuáticas) によるものであり、カリブ海沿岸で観察された[水生鳥類4300件のデータ](#)が公開されています。沿岸地域にある8県のうち6県39地点における観察データとなっています。

また、当協会では、コロンビアの太平洋岸にあるサンキアング国立公園で観察された[400件の鳥類データ](#)を公開しています。このデータセットは、保護区域内に棲息するチュウシャクシギ (*Numenius phaeopus*) を対象とした調査に基づくものですが、他の鳥類についても、ねぐら域における計数データが公開されており、データセットには、32種類の鳥類に関する情報が含まれています。

## デンマーク

オーフス大学生物科学部では、国内の保護区域における詳細な調査に基づいて、[110万件の植物データ](#)を公開しました。この調査は、統一データ収集方法により再現性のあるデータ収集が可能であることを確認し、保護区域の管理に役立てるために行われました。

この調査の技術要件に関する詳細については、[こちら](#)をご覧ください。

## ドイツ

新たにデータ公開を開始した[マインツ自然史博物館](#)では、[50万件を超える国内植物観察データ](#)を公開しました。今回のデータでは、特に16ある連邦州の一つであるラインラント＝プファルツ州が重点対象となっています。植物データは、ほぼ全部が1990年以降収集されたものであり、ドイツにおける植物分布地図に加えられています。

第20回GBIF理事会の会場となった[ベルリン自然史博物館](#)では、ハヤトビバエ科のコレクションから[47,500件のデータ](#)を公開しました。ハヤトビバエは、フンコバエとも呼ばれている双翅類の昆虫です。ハヤトビバエは、永久凍土帯を除き、世界中いたるところで繁殖しています。

## 日本

東日本の三島市にある国立遺伝学研究所では、富士箱根伊豆国立公園に棲息する[7900件の植物データ](#)を公開しました。このデータは、この公園内のハイキング道路沿いに棲息する植物種について、ボランティア団体のメンバーが2001年以降収集を行ったものです。観察記録は、査読付国際学術誌である[Ecological Research誌にデータペーパー](#)として公開されました。

## ノルウェー

長期分布観察調査により収集された[25万件を超えるノルウェーの海鳥に関するデータ](#)が、[ノルウェー自然科学研究所](#)から公表されました。このSEAbird POPulation (SEABIRD) と呼ばれる調査計画は、ノルウェー沿岸及びスバルバル諸島における繁殖及び越冬の状況を調べるために、2005年から開始されました。調査結果は、海洋環境の管理に用いられます。

## イギリス

登録慈善団体である[絶滅危惧種保護国民トラスト](#) (PTES) では、2005～2006年に実施したハリネズミに関する調査に基づいて、[16,200件のデータ](#)を公開しました。この調査は、イギリス本土及びアイルランドの土地所有者やボランティアが庭で発見した目撃情報を元にしたものです。また、このトラストでは、ハリネズミが冬眠から出てくる時期について調査を行い、[3300件のデータ](#)を公開しました。ハリネズミ個体数の減少は、環境の状態を示す目安となります。

## アメリカ

新たにGBIFネットワークにデータを公開した[エシグ昆虫博物館](#)では、[15万件を超える昆虫データ](#)を提供しています。この博物館は、カリフォルニア州に棲息する昆虫の調査を目的としており、今回報告された大規模なデータには、州内における生息状況がよく反映されています。

## ニュースから

過去2ヶ月間にGBIFは、以下に示した記事の中で取り上げられています。

- 経済成長が生物多様性に及ぼす影響について取り上げたエコノミスト誌の特集記事。記事は、[こちら](#)から読むことができます。
- 生物多様性の維持における科学技術の役割について論じたハフィントンポスト環境面の記事。記事は、[こちら](#)から読むことができます。
- 科学研究に関するニュースを集めたサイト「The Conversation」に掲載された、自然史標本コレクションの意義に関する記事。記事は、[こちら](#)から読むことができます。



## GBIFネットワーク内外の活動

### 生物多様性プロファイルに関する報告書発表 オーストラリア

オーストラリア連邦科学産業研究機構 (CSIRO)、オーストラリア気象庁及びアトラス・オブ・リビング・オーストラリアが共同実施した研究により、自然史コレクションや環境保全機関によるデータと分布データとの統合を行い、オーストラリア大陸の規模で生物多様性のモニタリングを行うシステムが作成されました。

今回の研究結果は、「[生物多様性プロファイリング：大陸規模生物多様性情報システムの構築を目指して](#)」(Biodiversity Profiling: Components of a continental biodiversity information capability)と題する報告書にまとめられています。この研究に関するブログ記事は、[こちら](#)から。

## 今後のイベント予定

### 会議とワークショップ

第20回GBIF理事会、新規GBIFポータル開設及び科学シンポジウム  
2013年10月8～10日、ドイツ、ベルリン  
詳細は、[こちら](#)。

第17回CBD科学技術助言補助機関会合 (SBTTA)  
2013年10月14～18日、カナダ、モントリオール  
詳細は、[こちら](#)。

世界植物園会議 (GBGC)  
2013年10月20～25日、ニュージーランド、ダニーデン  
詳細は、[こちら](#)。

第5回国際バーコード・オブ・ライフ会議  
2013年10月27～31日、中国、昆明  
詳細は、[こちら](#)。

TDWG年次総会  
2013年10月30日～11月1日、イタリア、フィレンツェ  
詳細は、[こちら](#)。

### トレーニングセミナー

GB20ノードトレーニングコース：強固なGBIFノード樹立のために  
2013年10月4～5日、ドイツ、ベルリン  
詳細は、[こちら](#)。

GBIFスペイン主催GEO Locateを用いた地理参照法に関するオンライン・ワークショップ  
2013年10月16～30日、インターネット  
詳細は、[こちら](#)。

アフリカ地方行政機関を対象としたトレーニングセミナー (2013年地域気候変動対策会議の一環として開催)  
2013年10月30日～11月1日、タンザニア、ダルエスサラーム  
詳細は、[こちら](#)。

GBIFドイツ及びドイツ生物体系学会 (GfBS) 共催によるドイツ植物標本館学芸員のためのワークショップ  
2013年11月4～5日、ドイツ、ベルリン  
詳細は、[こちら \(ドイツ語\)](#)。

BioVeLを活用して分類法改善、生物地理分析及び生物分布モデル化を行うワークフロー入門  
2013年11月26～27日、イギリス、カーディフ  
詳細は、[こちら](#)。

GBIF の Vision : 科学、社会及び持続可能な未来のために、生物多様性情報が全域で自由に利用可能な世界の実現を目指します。

GBIF 本部  
Universitetsparken 15  
DK-2100 Copenhagen Ø  
Denmark

<http://www.gbif.org/>

GBIF の Mission : 生物多様性情報を提供する世界随一の情報発信源となると共に、環境と人類の福祉に役立つ賢明な解決策を提供することを目指します。

電話 : +45 35 32 14 70

Fax : +45 35 32 14 80

E-mail: [info@gbif.org](mailto:info@gbif.org)

過去のGBits ニュースレター・アーカイブ :

<http://www.gbif.org/communications/resources/newsletters/>